

今月のことば

私の心の闇を
破るひかり
それは
真実の言葉
である

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき

昔の、中学一年生の宗教の教科書『みち』の中に、島崎藤村『おさなきものに』からの引用として、「おしゃかさまの燈火」という文章が載っていました。そこには、

「おしゃかさまは、燈火をつけて歩いた人です。おしゃかさまが一度燈火をつけたら、そこにも、ここにも、燈火がつくようになりました。(中略)おしゃかさまの燈火は、ちょうちんの燈火でもなく、ランプの燈火でもなく、電燈の燈火でもありません。おしゃかさまは、人の心の奥に、美しい燈火をつけて歩いたのです。」

では、お釈迦さまはどうやって、人の心の奥に、美しい燈火をつけたのでしょうか。人の心にひかりを与えてくれるもの、それは、真実の言葉です。お釈迦さまの言葉(教え)は、私たちの心にひかりを与えてくれるのです。

皆さんは、悪口や意地悪な言葉を投げかけられて、心が暗くなった経験はありませんか。悪口や意地悪な言葉など、嘘・偽りの言葉は、私たちの心を傷つけ暗くします。それに対して、お釈迦さまの言葉、つまり、真実に目覚めた者(仏さま)の言葉は、私たちの心の闇を破り、ひかりを与えてくださいます。私たちのいのちに、ひかりを与えてくださいます。

真実の言葉に耳を傾け、自らの在り方を常に見つめながら、このいのちを、いのち一杯に生きたいものです。

合掌